

令和7年度「飼料用米多収日本一」受賞者の概要

○単位収量の部

(敬称略)

褒賞名	経営体 (団体名・個人名)	住所	品種	作付面積 (a)	単収 (kg/10a)	受賞理由
農林水産大臣賞	いけだ よしお 池田 侯男	山口県 山口市	オオナリ	121	912	多収性に加えて耐病性・耐倒伏性・脱粒性等も考慮した品種の選定により多収化を図るとともに、実需者や地域の関係者と連携したほ場視察会など多収化に向けた取組にも参画し、高収量を実現している。育苗・田植えにおける省力化や、堆肥を用いた土づくり、立毛乾燥による乾燥コストの低減等の取組も行われている。
農産局長賞	くぼ とくたろう 久保 徳太郎	愛媛県 内子町	北陸193号	173	818	過去に飼料用米に取り組んだ際には収量が上がらず、1度は生産を止めたとのことだが、令和4年に品種を見直して生産を再開すると単収が向上し、高収量を実現している。また、水資源が豊富という地理的特性を生かし、適切な水管理によって農薬の効能を高めるとともに、水のかけ流しによる高温障害の回避にも取り組んでいる。
全国農業協同組合 中央会会長賞	くろき よしひこ 黒木 嘉彦	宮崎県 日向市	ひなたみのり	138	797	田植同時側条施肥やドローンの活用による省力化に取り組むとともに、水管理の徹底などきめ細かな栽培管理を実践し、取組4年目にして高収量を実現している。さらに、農業組合法人の理事として、法人が所有する農地での作業にも従事し、地域農業の維持発展に貢献している。
全国農業協同組合 連合会会長賞	さかもと まさみ 坂本 正美	岩手県 盛岡市	つぶゆたか	97	757	地域の酪農家から提供された牛ふん堆肥を積極的に活用するとともに、窒素肥料の施用設計を見直すなど、2年にわたり土づくりを徹底。その結果、安定した多収を実現している。さらに、地域の研修会にも積極的に参加し、得られた知見を自身の栽培管理に反映させることで、さらなる収量向上を追求している。
協同組合日本飼料 工業会会長賞	ほそかわ けん 細川 健	青森県 青森市	ゆたかまる	168	761	飼料用米の導入による作期分散や、省力化・低コスト化を目指した育苗や施肥管理の工夫等により大規模な稲作単一経営を実現している。また、畜産物のブランド化など、飼料工場も含めた地域の飼料用米ネットワークの構築にも取り組んでいる。
日本農業新聞 会長賞	たかうち りょうすけ 高内 良助	山形県 山辺町	ふくひびき	126	785	山辺町が一体となって推進する「飼料用米プロジェクト」に参画し、飼料用米や稲わらの供給、豚ふんの活用など、耕畜連携に積極的に取り組んでいる。さらに、県の指導を踏まえつつスマート農業技術の導入にも挑戦し、試行錯誤を重ねながら生産性の向上に努めている。

令和7年度「飼料用米多収日本一」受賞者の概要

○地域の平均単収からの増収の部

(敬称略)

褒賞名	経営体 (団体名・個人名)	住所	品種	作付面積 (a)	地域平均単収 からの増収 (kg/10a)	受賞理由
農林水産大臣賞	ふくい しんや 福井 慎也 ふくい じゅんいち 福井 順一	愛媛県 西予市	北陸 193 号	407	309	「水稻」「麦」「大豆」のブロックローテーションに取り組みながら、経営面積30haという大規模な経営の中で、作期分散も考慮しつつ品種を選定し、高単収を実現している。ドローンや自作の除草用水田ボート、営農支援システムを活用して省力化に取り組むほか、畜産農家との耕畜連携にも取り組んでいる。
農産局長賞	つなみ 株式会社 273 代表取締役 こだま のぶゆき 小玉 信行	大分県 国東市	北陸 193 号	486	248	「主食用米」「飼料用米」「はだか麦」「小麦」を組み合わせた輪作体を実施している。さらに、再生二期作への挑戦やスマート農業技術の積極的な導入など、新たな技術の活用を進めることで、家族経営でありながら広い面積での生産を可能としている。
全国農業協同組合 中央会会長賞	株式会社 アグリ日辻 代表取締役 ひつじ ゆういち 日辻 祐一	茨城県 つくば市	夢あおば	471	215	多収品種の高い肥料要求率を生かし、「麦・大豆」「水稻」の交互輪作に取り組んでいる。また、畜産農家から提供された豚ふん堆肥を基肥として散布するほか、過去の収量実績や土質を踏まえつつ圃場を目視で確認して必要な箇所のみ追肥を行うなど、効果的な施肥管理を実践している。
全国農業協同組合 連合会会長賞	やまうち のりつぎ 山内 憲次	宮崎県 延岡市	笑みたわわ ひなたみのり	926	257	牛ふん堆肥による土づくりやドローンを活用した病害虫防除、徹底した水管理など、主食用米と同様に丁寧な栽培管理を行うことで多収を実現している。さらに、地域の「稲作研究会」において栽培技術の横展開を図るなど、誇りを持って飼料用米の生産に取り組んでいる。
協同組合日本飼料 工業会会長賞	有限会社 エムケイ商事 代表取締役会長 くろき もりはる 黒木 守春	宮崎県 都城市	ひなたみのり	1010	205	広い面積で飼料用米の生産に取り組む中、スマート農業技術を積極的に活用し、生産性の向上を図っている。また、自社や地域の農業高校と連携した畜産物のブランド化や農地集積の推進、乾田直播の導入、さらには環境負荷軽減の観点からの中干し期間の延長など、モデル的な取組を進めている。
日本農業新聞 会長賞	ありむら さちお 有村 幸夫	宮崎県 都城市	ひなたみのり	249	276	稲わらのすき込みや牛ふん堆肥の活用により、令和6年産では前年産より約10kg/10aもの化学肥料使用量を削減するなど、環境負荷の軽減に貢献している。また、主食用米、飼料用米、WCS用稲、裏作のイタリアンライグラスを組み合わせることで、作業効率の向上も図っている。